

呼吸器系疾患が多数

レイテ島
地滑り災害

AMDAが帰国報告

フィリピン・レイテ島 支援をしていた国際医療
の地滑り災害で緊急医療「NGO「AMDA」」(本



アナハワン郡病院で被災者を診察
する医師ら(2月22日、フィリ
ン・レイテ島で(AMDA提供))

部・岡山市)が2日、帰
国報告会見を開いた。

AMDAは、地滑り発
生の翌2月18日に第1陣
の調整員を派遣。21日か
ら27日まで、日本人医
師、看護師、AMDAイ
ンドネシア支部医師らに
よる医療支援を行った。

災害現場から約9^{キロ}離
れた避難所などで診察し
た数谷亨医師らによる
と、今回の地滑りでは、
死者・行方不明者は多数
出たが、生存者にけが人
は少なかった。7日間で
315人を診た結果、狭
い空間に大勢が暮らす避
難生活の影響か、風邪な
どの呼吸器系疾患や不眠
を訴える人が多かったと

いう。「精神的なショッ
クの影響は、今後出てく
るのではないか」という。
菅波茂AMDA代表に
よると、同国では外国人
の医療行為は禁じられて
いるが、地元医師会の全
面的な受け入れのおかげ

で医療支援が可能になっ
たという。日本からの直
接支援はひとまず終了す
るが、物資調達などで協
力を得た金光教平和活動
センターのマニラ事務所
スタッフらを通じた情報
収集は続けるという。